



厚沢部町 農産物生産組合あっさぶ農匠 『規格外品のかぼちゃをシンガポール等へ』

【主な品目】

かぼちゃ

【主な輸出先国・地域】

シンガポール、マレーシア、香港

【輸出に取り組んだ経緯と概要】

- ◆ あっさぶ農匠は、厚沢部町における新ブランド農産物の生産振興や、農業経営の安定、地域農業の振興発展を目的に、2016年に設立。
- ◆ さがらマロン(品種名:九重栗イレブン)のブランド化を目指し、7戸の農家で栽培開始。現在は相良一之氏を代表として10戸の構成員で取り組んでいる。国内では需要が少ない規格外品の小玉が海外では需要が高いことに着目。2017年(平成29年)に香港で試験的に販売。
- ◆ GLOBAL.GAPの認証を取得し、低農薬化等の作物の品質管理を向上。

【輸出実績】(令和元年より輸出開始)

	輸出額(万円)	輸出量(t)	出荷時期
令和4年度	730	46.0	9月～2月
令和3年度	260	17.0	
令和2年度	272	20.0	

※コロナ禍により計画を大きく下回った。

【輸出に取り組む際に生じた課題及び対応】

- 国内需要は「4～8玉/10kg」が主流であり、海外市場では「9玉/10kg」以下の小玉(規格外品)を好む傾向があることから、規格外品においても有効活用していくことで、全体での収益性を図ることが課題。

【今後の課題・展望】

- 輸出向けの生産量を確保するため、構成農家におけるGAP認証の取得を促進。
- 生食用については、少量ながら着実に輸出が増加しているが、計画していたスイーツ等の加工商品化が進んでいない状況にあり、引き続き商品開発を推進する。
- 就農人口の減少が深刻化する中、安定出荷のための労働力の確保が重要課題である。



かぼちゃの試食販売の様子



長期保管実証実験



規格外品のかぼちゃを活用しペースト化

【活用した支援・施策】 令和2年度GFPグローバル産地づくり推進事業

【担当者】 森 稔彦